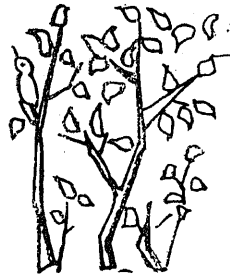


小鳥を飼う楽しみ

— 1 —



高島 春雄

野山で鳥のやさしい姿を見、美しい声を聴くと、出来ることなら自分の家で籠にでも飼つて毎日その姿や声を楽しまたいと願うのは人情の自然であります。

ところが今の狩猟法施行規則は、日本の野鳥保護の見地からできるだけ野山の鳥を捕獲させないようになつていて、飼つてよい野鳥というのはウグイス、ヒバリ、ウソ、ホオジロ、ヤマガラ、メジロ、マヒワの七種に限られてあります。このほか毎年十一月から猟期が始まると、免許を受けた人だけが捕つていゝ鳥（それらを狩猟鳥類といゝますが）があります。それらを生擒りして飼つてもいゝ訳です。しかし狩猟鳥類の中には小鳥はほとんどはいつておらず、強いて挙げれ

ばウズラ、スズメ、ニュウナイスズメ（入内雀）の三種だけでしよう。

惜で、これらの飼つていゝ鳥を飼う為には、鳥類捕獲許可を得て捕獲し、次に飼養許可証（知事が発行するので都庁や県庁或はその出張所に係がいてそれをくれます）を受けるのです。この許可証を貰うのには手数料が要るし又毎年新しく貰わねばなりません。

アメリカでは、野山の鳥は万人の共有物であつて個人が独占して飼つたりすべきでないということが強調されていきます。日本では前述の法規を知らなかつたり、知りながら届出をしないで飼つたり、或は生擒りして飼うことを許されない種類（オオルリとかコマドリとか）をひそかに飼育している人があるし、鳥屋でもそういう種類を売物に出しているのは違反であつて残念なことだと思ひます。密猟と共にこういうモグリの飼育はしたくないもので、皆様の知人や小さい方々に皆様からよく注意して下さいようお願いします。遵法の精神はいつの世にあつても大切です。

庭の植込みの繁みなどには、野山の鳥が時々訪れるもので、それを見つけて、おやウグイスが来たよと息を殺してその動作を眺めるのも嬉しいことです。少しでも庭があつて植込みなどあつたら、部屋の中で籠に飼うことを思案するより

も、庭に自然のまゝで小鳥達を誘致する工夫を凝らすぼうが
理に適つています。

これらの小鳥にも、一年中日本にいて夏は山の奥、秋冬は
人里近くに移るとか、春まで平地の村落などにおいて夏には海
岸方面に去るとか、短距離の移動にとどまる者と、春日本に
来て秋去り、或は秋日本に飛来して春渡来する渡り鳥と、あ
ります。

庭に現れる種類も四季によつて違います。スズメのように
周年人家近くにおいて去ることのない者さえあります。多くの
小鳥達はいつも日本にいて或は日本に滞在している間に動物
質の物を食べたり雑草の種子を啄んだりします。田畑の雑草
を除去するのが農家の人々にとり、中々大きい負担であるの
を私達は知つています。小鳥達は普段でもそうですが、自分
の雛を育てる時にはスズメのようなものでも毎日多量の昆虫
やその幼蟲、クモその他動物質の物を捕えて来て食べさせま
す。そういう昆虫は全部とはいえないまでも農林業上の害虫
が極めて多いのです。そういう悪い虫を自分や雛のために毎
日欠かさず相当の量を捕えて来て餌にするのであります。か
ら、小鳥達がそういう害虫の天敵として私達の知らぬ裡に尽
してくれる役割は誠に有難いものです。もしこういう小鳥達
を射ちとつたり追払つたりすれば、その役割を放棄して別の
所に移つてしまふし渡り鳥なら段々渡つて来なくなり、
戦時中から戦後にかけ世の中の秩序が乱れ、法に従わぬこと

が多くなり、あとさきの考えもなく野山の鳥を濫獲したり森
林を濫伐して小鳥達の安住の地を奪つたりしたので目に立つ
て数が減り、延いては農林業上の害虫を蔓延らせるようにも
なつたのです。戦後日本の各地に松食虫が拡がり貴重な天然
資源を大量に損つたのも、小鳥達を追いつめたのが自然界の
均衡を破り松食虫をして時を得顔にさせた一つの有力な原因
であります。野鳥でおおわれる程満ち満ちた国土にするため
には密猟を厳禁し、森林の濫伐をやめて小鳥達の安息の場所
を残し、モグリの飼養もいけないし総べて道義の昂揚が必要
です。徳義心のない日本人の数はかりふえて同胞に迷惑をか
けたり同胞相食む愚を演じているのは本当に悲しむべきこと
です。当分の間は野山の鳥はふやし日本人は減らすようにす
べきだと私は念じています。

公園や広い庭では巣箱を架けたり給餌台を置いたり水飲み
水浴びの場所を提供したりして大いに小鳥の誘致に努めたい
ものです。

新潟県加茂郡の学校の先生に非常な愛鳥家がいて野鳥養護
林と名づける小鳥達の安息所を設営し大いに効果を挙げてい
ます。これは温存された鬱蒼たる樹林に小鳥誘致のための諸
施設を整えたものです。

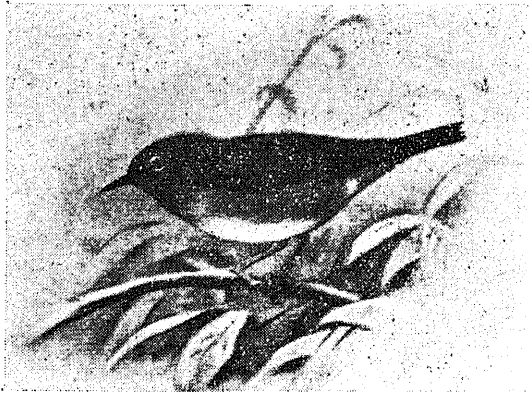
まあそれ程でなくとも、広い庭だつたらせめて餌をやる台
でも置いて、冬に餌を求めるのに苦勞する鳥達を喜ばせる位

のことをしたいものです。菓箱を架けることも大切ですが菓箱を利用する鳥は種類が限られていますから、給餌台のほうが一層野鳥を喜ばせることになりましょう。

要するに野鳥を捕えて飼うことには必ずしも賛成しかねるのですが、それでも飼うというなら上記定められた種類の範囲で正規の手続をした上で愛育して下さい。鳥屋から購入する場合には手続等に関しては鳥屋とよく御相談下さい。

もとは野生であつた鳥を、羽彩が美しいとか動作が面白いとか鳴声が良いとかで西洋でも東洋でも馴致して、今では家庭で籠等で飼うのに適するように仕立てられた種類がいろいろあります。それらは籠の中で巣引させることが出来、野生の雛がほとんど失せて全くの愛玩鳥になつたものです。カナリア、インコ、十姉妹、文鳥等がそれでこれらは鳥屋に行けばいくらでも買えるし、飼うにも許可等いらす大威張りです。その上、野山の鳥の飼育は餌その他難しいものですがこういう小鳥達はやさしく

ウグイス



割に手数がかゝりません(餌は時餌と青菜でいゝ)。

一体小鳥は綺麗だし餌の種類も鳥によつて大体きまつていゝるし飼うのに場所をとらないし、扱ひよくて家庭で素人にも飼えるものです。小鳥が愛玩の目的によく適う動物であることは、一寸でも飼つてみると痛感なさるでしょう。

小鳥の世話をするところから動物愛護の念を強く萌し、それから更に人間同志の親和に役立つことになりますし、子供達の自然観察にも活用出来る筈です。克明な飼育日記でもつけさせるようにすれば誠に有意義と考えます。

それでは次に、始めに挙げた七種の日本の野鳥を順に説明し併せて飼ひ方にも触れましょう。但し私はこれらの飼育の経験に乏しいのでその道に精しい方々のお話を取次ぐ場合が多いことを御諒承願つておきます。

【ウグイス】

ウグイスの羽色は昔から鶯色といいますが背面はオリブがかつた褐色、腹面はクリームがかつた白色です。鶯餅という和菓子の色は本當の鶯色ではなく寧ろメジロに近い位でしょう。羽色では雌雄の区別はつかないが、雌は雄より小さいので馴れた人には識別出来るようです。

夏山奥で蕃殖し秋に平地に現れ、秋の中頃から平地近くに

姿を見せます。その頃は庭の植込の間などを潜つて歩いたり枝を伝つたりしながらチャツチャツと鳴きますが、これがウグイスの笹鳴きでその頃のウグイスがヤブウグイスです。蕃殖期になると、経を読むようだと言われ、昔からいわれるホーホケキョーという声で囀ります。人里近くでは、三月から四月にかけての僅かな間しか囀りをきかれません、山の中では引続ききかれるわけです。山の中で谷から谷に響き渡るかと思われる程ケツキョーケツキョウとせわしく鳴き立てるのを「鶯の谷渡り」といいますが、その時谷を渡つてゐる訳ではありません。昔からお正月にウグイスの初音を聴くのを喜ぶ習慣があり、近頃は元日にラヂオで初音の放送があつたりしますが、その頃ホーホケキョーと囀るのは九州の南部や伊豆七島など位で他の所では早過ぎるのです。ウグイスの初音というのは、繰上げてお正月にむりに啼かせるように飼ひ方を工夫したもので、決して自然ではないのです。

ウグイスは周年日本にいて数も多く、昆虫を主食とするので害虫駆除の功は大きいといわれなばなりません。

卵は赤褐色で長さ一・七センチ、厚さ一・三センチ位、一産に五―六箇です。巢は笹藪などに造られます。面白いのは、ホトトギスには自分で巢を造る習慣がなく、ウグイスの巢の近くをうろついて六月か七月にその巢の中に自分の卵を一つ産み落し、立ち退いてあとの世話を一切ウグイスに任せ

てしまうことです。ウグイスは仮親になつた訳で自分の卵もひとの卵も一諾に抱いて温めます。ホトトギスの雛はウグイスのよりも必ず早く孵り、孵ると巢の中にあるウグイスの卵を邪魔にして体を動かして巢の外に押し出し、自分ひとりウグイスの運んでくれる餌を貰つて育つて大きくなります。ウグイスはどういう気持なのかわかりませんが（ホトトギスの卵は色はウグイスのと同じで形はやや大きい）せつせと餌を運んでこのよその子を育てるのです。この不思議な習性は昔の人も気づいていました。

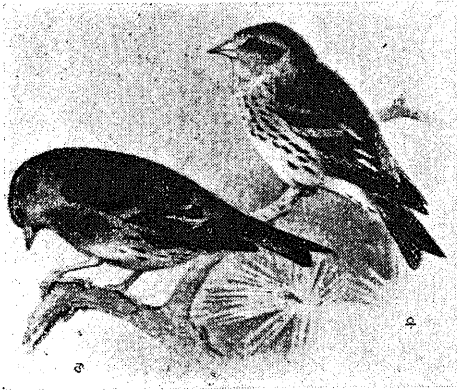
ところで英語でナイチンゲールという鳥が日本で「夜鶯」と訳されるのでウグイスの仲間のように誤解されますから一言つけ加えて置きましょう。これは実はツグミ科の鳥でコマドリ等に血縁が近くウグイスとは全く別類です。羽色は鶯色に近く背面は灰褐色、腹面は淡く、尾は褐色みが強いのでアイギリスだけでなくほとんど全ヨーロッパにおり、冬には北アフリカに渡つて避寒します。コマドリなどのように高く美しい声で昼も啼きますが、日没後鳥の声もやんでひつそりとなつた頃盛に啼くので特に有名になつた訳で、日本の昔の学者は「小夜啼鳥」という名を与えています。又ウグイスの漢名として黄鳥というのが用いられますが、この黄鳥も本体はウグイスとは全く別業です。ムクドリや九官鳥（よく人語を真似る）に近縁のものでコウライウグイスというのが標準和

名です。朝鮮・台湾その他に産し羽の彩り美しく声も佳いので昔から飼鳥にされてきました。その声はきょようによつては Who are you と聞えます。羽は黄金色で翼の一部と尾の一部は黒く、又眼の所から後頭部をぐるりと環る黒い帯があります。

マヒフ

一般に鳥屋で売つてゐるひご竹の鳥籠に入れて飼うのですが、大專にする人はこの籠を更に籠桶ツボという箱に収めて鳥を驚かさぬようにします。この箱は前面だけが障子蓋になつてゐます。鳴声のよいウグイスに仕込むには、雛の時分から鳴きの優れた親鳥をそばにつけたり、専門家はいろいろと苦心します。夜飼いというのは秋になつて日短くなつて来ると、夜明るい居間に籠桶を持ち出し電燈を明るくして昼の延長のような錯覚を起させ、年の暮にもうホーホケキョーと囀らせようという仕組みです。

ウグイスの餌には五分の播餌を用います。播餌というのは御存じと思ひますけれども、米糠と、川魚を焼いて粉にしたものと、青菜を播鉢ですつたものと夫々混ぜ合せ、水で軟く



したもののことで、米糠や魚粉は鳥屋で売つてゐます。米糠といつても玄米粉と糠とを混ぜたのがいゝことになつており、魚粉は小ブナ、ワカサギ、ハヤ等あまり大きくない魚を使うのが本式で、串に刺して狐色に焼き上げ、それを陰干にしてよく乾燥させてから粉にするのです。五分とか三分とかいうのは例えば米糠十匁に対し魚粉を三匁混ぜたのが三分餌です。青菜の分量は播餌がよもぎ色になる程度といわれます。幼鳥でしたら魚粉の量を比較的多くします。この播餌は一遍にたくさん用意しても腐敗し易いから、毎朝必要量だけ作らねばなりません。それを忘れたり怠つたりするようでは鳥を飼う資格は無いわけです。播餌の鳥は別に水をやらなくともいいのです。文鳥とかカナリアとか外国種のものは大抵播餌で、播餌の飼鳥は播餌を毎日作らずに済むので楽ですから日本にも大いに普及するようになったのであります。けれども昔から多くの人々が経験に経験を重ねてこゝろいう播餌というものを考案調査するようになったのでして、播餌の鳥は大人向の飼い方だといえましよう。播餌は材料は簡単なものです。が飼料としての価値は極めて合理的で、兎角欠乏しがちのヴィタミン各種や灰分などが適宜配合されているのです。

播餌で飼う鳥には飲水を与えないので、播餌の鳥のように

飲水器の水を利用して水浴びをすることが出来ません。ところがウグイスは水浴びを喜ぶので次のような方法で夏なら一週二回、冬なら一回位水浴びをさせます。それはお天氣の好い日であることが必要です。水浴籠という木製で底のない小さい籠が出来ていますから、まずその中に鳥を移し、器に水を盛つてそれにこの籠の底が七八分も水に浸るようにつけるのです。ウグイスは喜んで水中におりて勢よく羽搏きをして水浴びをやります。満足して上にあがり翼をふつて水をきる頃、その籠のまゝ夏では日陰の風通しのいい所、冬なら陽あたりのよい場所に置くと、濡れた体もかわきます。

【マヒワ】

マヒワは真鶉で、ヒワの中には他にカワラヒワ、ベニヒワその他の種類がありそれらに対して「普通の」「代表的の」ヒワという意味です。

スズメ科の鳥ですがスズメより小さく雌雄異色で雄では背面暗緑色、腹面は黄色を帯び、雌では背面は褐色みが強くなっています。ひわ色というのはこの鳥の羽彩に起つています。

日本では秋に現れる渡り鳥で地方によつては大群を成してやつて来ます。戦前は渡りの時に一網打尽式に捕獲し食用にしたもので、昭和元年には八十三万羽以上のものが捕獲されそれを重量してみると五千貫近い有様でした。雄は木の枝の一つ所に長らくことごとくとしていて、ツインツインとい

うような声で鳴きます。

冬は木の実を主食とし夏にはそのほかに昆虫を啄みますが、それが木につくアブラムシが多いので有益です。

よく馴れるので昔から飼養されますが、播餌だけでよいので簡単です。私はやつたことはありませんが、カナリアと交配して雑種を作ること、た易いといわれています。

(財団法人山階鳥類研究所主事・早稲田大学講師)

生徒募集要項

一、募集人員 第一部(昼間)五十名 第二部(夜間)五十名

二、修業年限 二年

三、受験資格 次の二項中何れかに当てはまる者

1、新制高校(旧制高女卒業、卒業申込者を含む)卒業以上の者か又は通常の課程による十二年以上の学校教育を修了した者

2、満十八歳に達した後二年以上児童福祉施設で児童の保護に従事した者

四、願書受付 二月十一日(一)三月二十五日

五、試験科目

(1) 学科試験(国語、社会科) (2) 人物考査

(3) 身体検査(提出の検査証をもつてこれにかえる)

六、試験日時 四月二日、三日午前十時より

東京都立高等保母学院

港区麻布弁町一八一